

2022（令和4）年度 学校経営計画

1 めざす学校像

教育目標

憲法及び教育基本法に則り、学園がこれまで築き上げてきた「人間尊重」の歴史に学び、現代社会を強く生き抜く人間を育てる為、教育目標を次のように定める。

- 1) 民主的な社会の形成者として必要な基礎学力を培う。
- 2) 仲間とのふれあいの中から、明るく豊かな心と創造性を養い、主体性と個性豊かな人間を育てる。
- 3) 生きる強さと人間的優しさを備えた心身共に健康な人間を育てる。
- 4) 他国の文化や生き方に学び、広い視野に立って地球環境と平和を守るために世界の人々と協力できる人間を育てる。

2 教育目標を実現するために(中期的目標)

1 経営基盤の確立

持続的・継続的に安定した学校運営ができるために、健全な財務状況の確立を目指す。

- a) 教職員の採用・人事配置・定数管理・人件費率等、適正に管理する。
- b) 補修工事や新規工事については年度計画に従って行うなど、適正に予算を執行する。
- c) 電力削減やペーパーレス化など、経費意識を持って、SDGsの取り組みに照らし合わせながら、環境にも優しい学校を目指す。
- d) 持続可能を前提として、「働き方改革」に沿って教職員が安全・快適に勤務できるようにより良い労働条件を追求する。

2 教育内容の充実

「行きたい」「行かせたい」と言われる、地域に信頼され誇りとされる学校を目指すために、教育内容を充実させる。

① 基本的な教育内容の徹底及び教職員の資質向上

- a) 将来の自立に向け、基本的な生活習慣の確立、マナー意識、規範意識を育む。また、誰にでも挨拶ができ、男女や年齢に関係なくコミュニケーションがとれる生徒を育成する。
- b) 新学習指導要領に基づく新カリキュラムについて、各教科・教務が中心となり、教学内容のさらなる充実を図るための検討を行う。
- c) 中堅進学校として大学進学実績の向上をめざす。4年制大学への進学率を75%以上に。国公立大学や難関私立大学、中堅私立大学、さらには志望の多い看護・医療系、薬学部への合格実績をあげる。そのために、目標達成に向けて努力する態度を養い、志望校合格に向け最後まで挑戦する姿勢・意欲を生み出しサポートする。一昨年度導入された大学共通テストについて情報を収集し、生徒に適切な指導ができるよう分析をする。
- d) 大学進学実績向上のためにも、英検やTOEIC、NEWS時事能力検定といった検定に積極的に取り組み、実力テストの事前・事後指導と分析をしっかりと行う。
- e) 教員の受験指導のスキルアップを図る。また、生徒による授業評価アンケートを継続実施し、日々の研鑽につなげる。
- f) 文化行事や講演会を企画し、情操教育の充実を図る。
- g) 租税教室や税の作文コンクールへの参加を通して、税と社会基盤整備の重要性について学ばせる。
- h) プログラミング教育について、研修に参加した教員を中心に授業計画を策定し、教員の研修をスタートさせる。
- i) 外部の研究発表大会やコンクールなどに生徒が積極的に参加できるように啓発し、教員がしっかりとサポートしていく環境づくりを目指す。

② ICT化の推進

- a) 学園全体としてのDX戦略を策定し、生徒・保護者・教職員がこれまで以上に快適にICT技術を活用できる環境整備を検討し進める。
- b) 教員用小型モバイルと生徒向け学習モバイルの活用について、プロジェクトチームのメンバーを中心に各教科で教学内容について検討を進める。
- c) インターネットを介した各家庭との連絡ツールの研究を進め、保護者への情報提供を確実にして連携を深めるようにする。
- d) オンライン英会話を活用し、中学校は全学年全クラスでの実施を継続し、高校は実施する機会を増やす。
- e) 各ホームルーム教室用PCの更新と各教室への動画配信ができるように環境整備を行う。

③ 国際化の推進

- a) 中学・高校を問わず、海外の学校との交流を図りたいが、コロナ禍の終息までの実施は厳しいと思われる。オンラインによる交流などの代替プログラムを策定し、たくさんの生徒が交流に関われるようにする。終息後は、本校の生徒を積極的に海外へ送り出し、海外での生活を経験させる。海外への渡航が厳しい状況が続くと予想されるので、国内・校内での研修をできる限り設定する。
- b) コロナ禍終息がなければ、高校の海外修学旅行は実施が困難と思われるが、来年度以降の実施に向けて安全かつ有意義なものとなるように準備する。
- c) コロナ禍終息後に向けて、希望者向けの海外研修の準備をする。また、代替となる国内・校内での研修の拡充を行う。
- d) 台湾やマレーシアなどの海外大学進学に向けての説明会を開催し、生徒・保護者の海外大学進学的重要性を認識してもらえよう努める。

④ 学校の環境整備

- a) いじめ対策として、「いじめ対策基本方針」について教員に再確認をし、生徒にはアンケート実施や中学生には通報システムを導入して早期発見に努める。
- b) 部活動の活動方針に沿って適切な部活動の実施をする。
- c) 食堂棟の新設、特別棟・同窓生会館の改修リニューアル工事の計画を策定し、できるだけ早く着手する。
- e) グラウンドやテニスコートについて、人工芝化などの環境整備を検討する。
- f) 自転車置き場の屋根の設置を検討していく。

⑤ 労働環境の整備

- a) 労働条件等について随時労使で検討し、職員室の備品の整備などのハード面も含めてより良い労働環境を追求する。
- b) 会議時間の短縮など長時間労働を良しとしない職場風土作りと、年間5日以上の有給休暇取得に向けての環境整備を継続して行う。
- c) 社内連絡用ツールとして使用しているシステムを利用して、出退勤時間と労働時間の管理を行う。
- d) 各種会議の回数と時間の削減やDX戦略を用いて労働の効率化を目指す。

⑥ その他

- a) 同一法人の中・高・大の連携を強化し、法人全体の活性化につなげる。
- b) 募集活動をさらに充実させる。次年度の入学生徒数の目標は中学70名、高校400名。
- c) 成人年齢引き下げで、高校在学中に成人年齢に達する生徒が存在するようになる。「主権者教育」「消費者教育」「金融教育」の実施を検討する。
- d) 来年度に迫った創立100周年に向け、周年記念事業の実施への取り組みを強化する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [2022年12月実施分]	学校協議会からの意見 (実施: 2023年2月)

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 経営基盤の確立	人事の活性化と教員の定数管理・労使の連携・適性な予算執行	① 専任教員の年齢バランス、常勤・非常勤講師の数的バランスを考慮し、採用計画を立てる。 ② より魅力ある学校作りに向けて人事配当を行う。 ③ 労使双方より代表を出し合い、労働条件についての協議を行う。 ④ 施設工事等、計画的に予算執行を行う。 ⑤ 教学に必要な経費を見直し、節減を推進する。	① 年齢、キャリアなどでバランスが取れるような人事採用ができるか。 ② 教職員の退勤時間を早められるか。 ③ 人件費率が60%以内に収められるか。 ④ 計画通り予算執行できるか。 ⑤ 紙の節約や備品の丁寧な使用など、節減の為の啓発をし、経費の削減をすることができるか。	① ② ③ ④ ⑤
2 教育内容全般の充実	より魅力ある学校を目指し、教育内容全般の見直しと実現にむけての準備	① 来年度入学生からの新カリキュラムについて、各教科の教学内容を検討し決定する。 ② 英検を中心に資格取得を奨励し、学習リズムの定着とグローバル化に適応できる英語力を養う。 ③ 大学入試改革後の入試制度や問題の研究と対策を行い、受験指導力の向上を図り、大学進学率と志望大学への合格数を増やす。 ④ 放課後の学習サポートとして、連携業者に委託して「HagoLabo」をスタートさせた。生徒の学習習慣の定着度を促進し、安定した進路選択に繋げる。 ⑤ 文化行事や講演会を企画し、情操教育の充実を図る。 ⑥ 授業内容については、各教科で協議と研究を重ね、常に教科指導力の向上に努める。 ⑦ 授業アンケートを実施して、自己評価と生徒からの評価を照らし合わせ、教員の指導力向上を図る。 ⑧ 生徒に読書を推奨し、大学進学にも繋がる読解力をつけることを強化する。	① 高校1年生の新カリキュラムに対して、シラバスの作成から授業展開までつつがなく実行できるか。 ② 中学生は卒業までに全員英検3級以上合格、高校生は卒業までに半数が準2級を合格することができるか。 ③ 公募制と一般入試受験の生徒を増やし、大学進学率を75%以上にし、国公立大学20名以上、関関同立50名以上の合格者を輩出できるか。 ④ 校内での放課後学習サポートについて、生徒の指導内容、施設整備等をしっかりと整え、拡充することができるか。 ⑤ 全校生徒向けに情操教育ができる文化行事を実施することができるか。 ⑥ 各教科で、毎学期1回以上の研究授業を行い、教科指導についての研鑽ができるか。 ⑦ 授業アンケートの実施とそれに基づく校長面接を全教員対象に行うことできるか。 ⑧ 読書の啓発を行い、読書週間を増やして読書をする機会を増やすことができるか。	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧
3 ICT化の推進	学園としてのDX戦略の策定と教室・校舎内の環境整備	① 学園全体としてのDX戦略を策定し、生徒・保護者・教職員がこれまで以上に快適にICT技術を活用できる環境整備を検討し進める。 ② 全員購入としたPCを学習、調べ学習、連絡ツールとして最適な活用法を研究し、効果的に使用させる。 ③ 各教室に配備しているPCやプロジェクターの更新など、オンライン授業の実施や、授業のライブ配信などの拡充に向けた取り組みを検討する。	① 学園のDX戦略の策定・実行を担当する教職員を配置し、環境整備などに着手できるか。 ② PCを購入した生徒の増加に対応して、PCを生徒に効果的に活用させることができるか。 ③ 各教室に配備しているPCやプロジェクターの更新や学園全体でのICTの環境整備に取り組むことができるか。	① ② ③
4 国際化の取り組み	すべての生徒が海外の生徒と触れ合う機会の確保と異文化への理解を深める取り組み	① 中学・高校共に海外の生徒との直接的な交流に替わる外国人講師によるプログラムを策定し実施する。 ② 高校入学生の来年度実施予定の修学旅行について、海外方面での実施が可能かどうかを検討し、可能であれば安全かつ有意義に催行する。 ③ 台湾とマレーシアの大学への進学を推奨し、希望者への情報提供とアドバイス・進学指導を実施し、実現させる。	① 中学・高校共に、オンライン交流や校内での外国人講師による代替プログラムの拡充を図ることができるか。 ② 高校入学生の来年度修学旅行の方面を海外にする計画を実行できるか。 ③ 海外大学への進学者が10名以上を輩出できるか。	① ② ③
5 環境整備	生徒がより快適に過ごせる環境を追求する取り組み	① 教学環境について、生徒の改善要求が多い点について検証し、可能な点を修正し、充実度を上げる。 ② 食堂棟の新設、特別棟の改修リニューアル工事の計画を具体化して、できるだけ早く着手する。 ③ グラウンドやテニスコートの人工芝化の検討をする。	① 生徒への学校生活についてのアンケートを実施し、結果を元に改善点を洗い出せるか。 ② 食堂棟の新設、特別棟の改修リニューアル工事等の計画を策定することができるか。 ③ グラウンドやテニスコートの人工芝化について検討し、計画を立てることができるか。	① ② ③
6 労働環境整備	働き方改革に沿って、より良い環境整備	① 年間5日以上有給休暇取得に向け、全員必ず取得できるよう整備する。就労環境をさらに働きやすくなるように整備する。 ② DX戦略などを通して、教職員がこれまで以上に効率よく仕事をこなし、かつクオリティを高められるように様々な角度で環境整備に取り組む。	① 一日研修日検討委員会を立ち上げられるか ② 教職員全員が5日以上有給休暇を取得でき、有給休暇消化率を上げられるか。 ③ DXの実行などで仕事量を軽減し、教職員が効率良く力を発揮できる環境整備を行うことができるか。	① ② ③
7 その他		① 同一法人内での中・高・大の連携をさらに進める。 ② 生徒募集活動を充実させ、目標入学生徒数を獲得する。 ③ 法人本部と連携して、災害時用品の備蓄をする。 ④ 学園の創立100周年記念事業に向けて取り組みを強化する。	① 現在実施されている連携に加えて新しい連携事業をスタートできるか。 ② 中学70名、高校400名の入学生を獲得できるか。 ③ 数日分の水・食糧・シート等を備蓄する計画を推進できるか。 ④ 「100周年事業会議」で中高が積極的に参画し、来年度の記念事業に繋げられるか。	① ② ③ ④